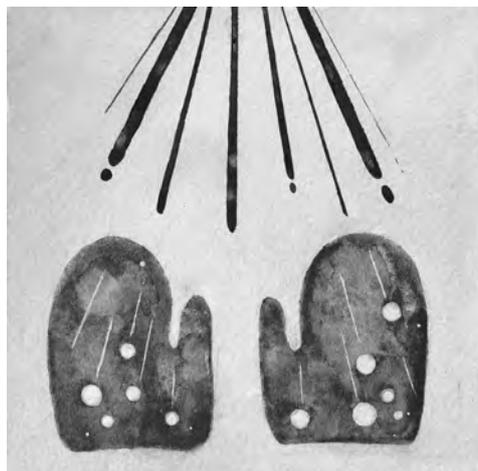


# 利他の心と自律行動

岡山県教育委員会委員

服 部 俊 也



長男が高校からフェンシングをはじめました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大で3月の全国選抜大会が直前で中止、その後インターハイもなくなりました。部の活動もストップし、特に3年生は、最後の大会が中止となり腐りかけている時、OBの学生たちがリモートなども使ってサポートしてくれたのです。そうして選手たちは自粛中も自主トレで体力を維持し、再開後の短い練習時間でも集中し効率を上げることが意識できるようになるなど、コロナ禍でもポジティブな変化を遂げたのです。9月末にはフェンシングでも、インターハイの代替として全国規模の大会が開催されました。歴代五輪選手の支援やクラウドファンディングによる資金援助もあり、自分たちは多くの人たちに支えられている存在であることを知ったのです。

今私たち一人一人の在り方が新型コロナウイルスに試されている気がしてなりません。今こそ「利他の心」を一人一人が心掛け、「自律行動」する時だと思えます。この世に一人で生きている人はいないのに、昨今は

多くの人が利己に染まりがちです。心を高め、それを是正する。自分に捉われず、他者を思いやる正しい生き方です。

そして、ワクチンが無いウイルスと向き合うには、現実を直視し「洞察行動」することが必要です。まさに不透明な時代には、未知のものや都合の悪いことから目を背けず事実を観察する。激しい変化にも、耐えて、真摯に考え、受け入れられるようになりたいのです。この「洞察力」が心許ないと感染が拡大し、ロックダウンが起こるかもしれません。またチームでの話し合いも大事です。「三人寄れば文殊の知恵」、コロナを組織力強化の機会と前向きに捉えれば、新しい日常を認識し、適応していくことができるはずで

す。このように未来への不安は絶えません。しかしP・F・ドラッカーは次のように述べています。「未来についてわかることは、1. 未来はわからない、2. 未来は現在とは違うという二つだけ。しかし未来の予兆は必ず存在する」と。その予兆を感じ取れる人間でありたいと思えます。